

## さらに同署等が連携して 技術開発担当者会議を開催

二月二日（水）平成二五年度 技術開発担当者会議を局において開催しました。先ず、鶴園森林整備部長から、林業の技術開発の現状と今後の課題等を含めて挨拶を受けた後、会議に入りました。

技術普及課長から、今後の技術開発の取組方向や四国では遅れているコンテナ苗の特徴等について説明があり、その後、意見交換しました。また、森林技術・支援センターが取り組んでいる技術開発課題等の説明、「シカ田いわな」の組み立て・分解作業では、市販よりも軽量で、一人でも設置・移動が可能であることや、捕獲実績等の説明を受けました。（写真左上）

最後に、平成二六年度の研究発表会に向けて、今日まで署等が発表した課題にも学び、発表に向けた準備等を進めて頂くよう要請しました。



今回の会議で出された意見等を踏まえ、引き続き同署等で連携して技術開発に取り組んでいきます。出席された皆さまおつかれ様でした。

## 四国の貴重な植物写真展 & 森林環境教育の活動写真展

四国の貴重な植物写真展は、高知県立牧野植物園から局広報誌（グリーン四国）に、平成16年5月から平成18年9月にかけて「四国の貴重な植物の写真」（29点）として寄稿されたものを展示（文・写真）しています。

森林環境教育の活動写真展は、各署等で平成24年度に実施した森林環境教育の活動状況の写真（20点）を展示しています。

場所 局1階 森林ふれあい館  
期間 2月28日（金）～3月28日（金）  
時間 午前8時30分から午後5時00まで  
（土・日・祝日も開館）

ふれあい館で、「貴重な植物たち」と「環境教育のまなざし」が待っています。

### 編集後記

3月 卒業のシーズン、年度末。  
少しずつ春の足音が。  
季節と上手く つきあう工夫を。



プロセッサ

## 「高性能林業機械」って

現在、戦後植栽された凡そ1,000万haの人工林が収穫期を迎え、より高い性能を持った林業機械の導入による安全性・生産性が高い、低コストな作業システムの構築が求められている。

高性能林業機械は、従来の林業機械に比べて高い性能を持ち、複数の作業を1台でこなす多工程機械。

我が国への高性能林業機械の導入は、昭和60年代に始まり、平成23年度における普及台数は、約5,000台。中でも、枝払い・玉切りを行うことが出来るプロセッサ（写真上）とハーベスタが全体の約5割。

路網と高性能林業機械を組み合わせた作業システムを導入することにより、低コスト・高効率な施業が実施されると共に、間伐の促進等の効果が期待できる。（RINYA2013 11月号）